

おじさんはリサイクル委員

—みんなのために働くって気持ちいい—

- 1 学年 第5学年〔中期〕
 2 主題名 勤労・社会奉仕〔4―(4)〕
 3 ねらい
 晴れ晴れとした顔でゴミの整理をするおじさんを見ている主人公の気持ちを考えることを通して、働くことの意義とその喜びを知り、進んで公共のために役立とうとする心情を育てる。
 4 資料名 「おじさんはリサイクル委員」
 5 展開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導入	1 ゴミステーションのことで知っていることを発表する。 ○ ゴミステーションについてどんなことを知っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミの種類によって出す曜日が決まっている。 ・ 時々カラスが袋をつついている。 	○ 自分達が利用するゴミステーションの様子を思い出させる。
展開	2 資料「おじさんはリサイクル委員」を読んで話し合う。 ○ 「真美」は、お母さんにゴミ出しを頼まれてどう思ったのでしょうか。 ○ お母さんから、おじさんたちの話を聞いた「真美」は、どう思ったのでしょうか。 ◎ 晴れ晴れとした顔で仕事をしているおじさんたちについて「真美」は、どんなことを考えたのでしょうか。 3 自分達の生活を振り返って話し合う。 ○ これまでに、人のために働いたことはありますか。または、人のために働いている人を見たことがありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 面倒だな。途中で寄り道をしなくてはいけない。 ・ ゴミは汚いから触りたくないな。 ・ おじさんたちが、並べてくれるからきれいにゴミが置いてあったのだな。 ・ お金をもらってやっているのかと思ってた。ボランティアだったのか。 ・ くさいのによくやるなあ。 ・ 自分だったらしたくないな。 ・ 人のために働くということは、気持ちのいいことなのかな。 ・ 自分もゴミの分類でできることは、どんどんしていけないとイケないな。 ・ 人のためにこんなくさいことをしているのに、すてきな笑顔をしている。きっと仕事に満足しているんだな。 ・ 学校の木を剪定に来て下さる地域の方を見た。 ・ 海岸の清掃に行った。 ・ 家の人の会社のゴミ拾い活動をいっしょにした。きれいになって気持ちがよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家族のためなのに、面倒がっている「真美」の気持ちをおさえる。 ○ 具体的にどのような仕事が行なわれているかに気付かせるために、仕事の内容をおさえる。 ○ ワークシートに自分の思いを書かせる活動を通して、話し合い、人のために働くことはつらいことかもしれないが、その先には達成感や満足感があることに気付かせる。 ○ 人のために働いた経験や見た経験を出させる際に、できればその時どういう気持ちになったかを発表させることにより、働くことの意義や喜びについて気付かせる。
終末	4 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 続けるためには、あまり力まわずに、楽しみながらすることも大切なんだな。 	○ 補助資料を紹介し、人のために働くことの喜びや意義だけでなく、楽しみながら働くことの大切さに気付かせる。

6 授業の概要

(1) 主題について

高学年になり、係や委員会の当番活動について、下級生の範となるべき立場になったものの、任された役割について、「さらによいものにしていこう」とか「人のために働きたい」という意欲がなかなかもてない児童もいる。思春期に差しかかる中期の時期に働くということが、自分のためだけでなく、社会全体をよくするものであることを理解し、公共のために役立つ活動に目を向け、進んで活動できるようにする必要がある。また、働くことにより満足感・達成感をもたせ、社会に奉仕し、公共のために役立つとしようとする心情を育てたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 活用の時期

夏の海浜清掃、企業が行っている家族参加型の清掃活動、学校の地域清掃活動等が行われる時期に合わせて扱うのもよい。

イ 体験活動との関連

児童自らが進んで計画し清掃活動を行う等の体験を通して、終わった後の美しさを感じ取らせたり、周りの人からの感謝の気持ちを知らせたりして、働いた喜びを味わわせたい。このような体験と本資料を活用した道徳の時間の授業を密接に関連させたい。

(3) 指導過程の工夫

ア 体験を生かした導入

導入では、毎日出すゴミを捨てる場所であるゴミステーションの様子を想起させ、資料に対する興味付けを行いたい。

イ 発問の工夫

展開の前半では、家族のためなのに仕事をするのが面倒だと思う「真美」の気持ちと、ゴミステーションのにおいについておさえ、なぜこんな仕事をという疑問をもたせたい。

展開の前段の中心発問では、自分ならいやがるような仕事を、明るい笑顔でこなしているおじさんたちの様子からボランティア活動に対する満足感や達成感を感じ取らせたい。

ウ 振り返り

自分のボランティア体験だけでなく、見たり聞いたりした経験も出させることで、自分たちの周りだけでなく、人のために働いている人がたくさんいることを理解させる。そのことが、多くの人の生活に役立っていることやそのことが自分自身の喜びにつながっているということ等について、体験と結び付けて考えさせたい。

エ 終末の工夫

資料には、補助資料としてリサイクル委員である区長さんの仕事に対する思いを載せたが、授業に関係者を授業のゲストティーチャーとして招くことも考えてみるとよい。また、事前に区長に取材し、その内容をCDで流したりビデオレターにしたものを視聴させたりして、仕事に対する区長の思いを感じ取らせるのもよい。

(渡子小学校 深見敏美)